



## 2020年度 太平洋いわし類長期漁海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

### 今後の見通し(2021年4月～7月)のポイント

#### 海況

黒潮は大蛇行が継続し、一時的な流路変動はあるものの、概ねA型<sup>(※1)</sup>基調で推移する。  
沿岸水温は、室戸岬以西は「**平年並**」<sup>(※2)</sup>～「**高め**」<sup>(※2)</sup>、紀伊水道外域は概ね「**平年並**」、  
熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は「**平年並**」～「**高め**」で暖水波及時に「**極めて高め**」<sup>(※2)</sup>、  
伊豆諸島南部海域は概ね「**高め**」、房総～常磐南部海域は「**平年並**」～「**やや高め**」<sup>(※2)</sup>で推移する。

※1 黒潮を遠州灘沖から伊豆諸島周辺海域の流路で分類する A型：流路南端が北緯32度以南

※2 平年並=平年値±0.5℃程度、やや高め=平年値+1.0℃程度、高め=平年値+1.5℃程度、極めて高め=平年値+2.5℃以上。

ただし、鹿島灘～常磐南部海域の基準は次頁末尾を参照のこと。

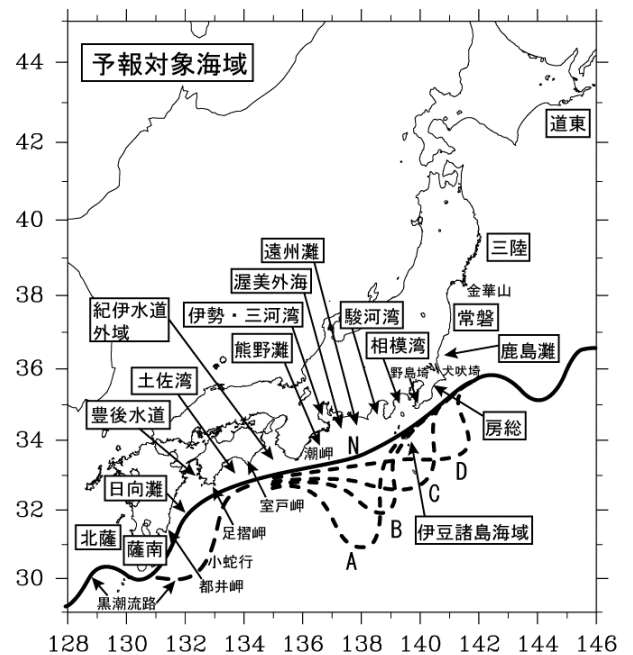
#### 漁況(来遊量予測)

##### マイワシ

前年並～上回る海域が多い。

##### カタクチイワシ

低水準であるが、前年並～上回る海域が多い。



### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当 管理部門：渡邊、木村

漁況：浮魚資源部 西田、由上、古市、木下

海況：海洋環境部 市川、日下

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

## 中央ブロック海況予報

### 今後の見通し（2021年4月～7月）

#### (1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと）

##### ◎潮岬以西

- ・都井岬～足摺岬では、4月までは離岸傾向、5月以降は接岸傾向で推移する。
- ・室戸岬～潮岬沖では、離岸傾向で推移する。

##### ◎潮岬以東

- ・大蛇行が継続し、A型基調で推移する。
- ・伊豆諸島海域では、概ね西側を北上するが、一時的に東側を北上することがある。
- ・房総沖では、概ね接岸傾向で推移するものの、一時的に離岸することがある。

#### (2) 薩南～房総海域

- ・都井岬～足摺岬沖では、5月以降は黒潮の離接岸変動は小さい。
- ・紀伊水道外域では、黒潮北縁から暖水が波及することがある。
- ・熊野灘～遠州灘～相模湾では、伊豆諸島北部海域から暖水が波及することが多い。
- ・伊豆諸島南部海域は、概ね暖水域に覆われるが、一時的に冷水域に覆われることがある。
- ・房総沖では、黒潮から暖水が波及しやすいものの、一時的に沿岸水が分布することがある。

#### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・黒潮の南北変動および一時的な離接岸変動に伴い、暖水が波及する可能性がある。

#### (4) 沿岸水温

- ・室戸岬以西は、「平年並」～「高め」で推移する。
- ・紀伊水道外域は、概ね「平年並」で推移するが、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。
- ・伊豆諸島南部海域は、「高め」で推移するものの、一時的に「平年並」になることがある。
- ・房総海域～常磐南部海域は、「平年並」～「やや高め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、  
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上  
（鹿島灘～常磐南部海域では、平年並＝平年値±1.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.6～3.9℃程度、  
（高め、低め）＝平年値±4～6℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±6.1℃以上）

## 経過（2020年12月～2021年3月）（注：経過は図2を参照のこと）

### (1) 黒潮

- ・ 2月上旬、九州南東沖で小蛇行が形成された。
- ・ A型流路の大蛇行が持続したが、1月上旬～中旬と3月中旬に八丈島の南側を通過する非典型的なA型流路となった。
- ・ 1月中旬までは、遠州灘沖で30～32°Nまで南下し、八丈島付近およびその西側をS字状に北上後、御蔵島付近を通過する流路をとることが多く、特に1月中旬には、御蔵島付近を通過後に、八丈島東沖で大きく南へ蛇行する流路をとった。
- ・ 1月下旬以降、鳥島付近から遠州灘までS字状に北上後、石廊崎沖～御蔵島付近を通過する流路をとることが多かったが、3月になると伊豆諸島付近を北上後、御蔵島付近を通過する流路となった。
- ・ 房総沖では、1月中旬～下旬に大きく離岸したものの、概ね接岸傾向で推移した。

### (2) 薩南～房総海域

#### ◎薩南海域

- ・ 黒潮北縁は、12月～1月は接岸傾向、2月は屋久島南付近の平均的な位置で推移した。

#### ◎潮岬以西

- ・ 都井岬沖では、12月は離岸傾向、1月は接岸傾向、2月以降は離岸傾向で推移した。
- ・ 足摺岬沖では、12月上旬は「著しく離岸」していたが、1月中旬～2月下旬は「接岸」～「やや離岸」で推移した。
- ・ 室戸岬沖では、12月上旬は「著しく離岸」していたが、1月下旬に「接岸」し、2月以降は「やや離岸」～「かなり離岸」で推移した。
- ・ 紀伊水道外域では、黒潮北縁から繰り返し暖水が波及した。
- ・ 潮岬沖では、1月上旬に「やや離岸」となったものの、概ね「かなり離岸」～「著しく離岸」で推移した。

#### ◎潮岬以東

- ・ 黒潮内側反流が断続的に形成され、遠州灘～熊野灘へ繰り返し暖水が波及した。
- ・ 12月下旬と3月初旬、御前崎沖の黒潮の屈曲部から小暖水渦が切離し、遠州灘～熊野灘を西進した。
- ・ 駿河湾、大島西水道・東水道へ向けて断続的に、暖水波及がみられた。
- ・ 伊豆諸島海域は、黒潮が八丈島付近およびその西側を流れたため、概ね暖水域に覆われた。
- ・ 房総海域では、概ね黒潮系暖水がみられた。

### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 期間を通じて、断続的に黒潮系暖水の波及がみられた。

## 現況 (2021年3月23日現在)

### (1) 黒潮

- ・ 都井岬～足摺岬沖を小蛇行が東進している。
- ・ 八丈島の南側を通過する、非典型的なA型の大蛇行流路である。
- ・ 室戸岬沖から大きく離岸し、遠州灘沖で30°30′N付近まで南下した後、鳥島と青ヶ島の間を通過し、伊豆諸島の東側を北上した後、房総沖を流れている。

### (2) 薩南～房総海域

#### ◎ 潮岬以西

- ・ 黒潮は、都井岬～足摺岬沖で「著しく離岸」、室戸岬沖で「かなり離岸」、潮岬沖で「著しく離岸」している。
- ・ 紀伊水道外域には、黒潮北縁からの暖水波及がみられる。

#### ◎ 潮岬以東

- ・ 遠州灘～石廊崎沖には、黒潮系暖水がみられ、熊野灘にも波及している。
- ・ 伊豆諸島海域は、概ね黒潮系暖水に覆われているものの、南部海域の一部に冷水域がみられる。

### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 沖合域に、黒潮系暖水の影響がみられる。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

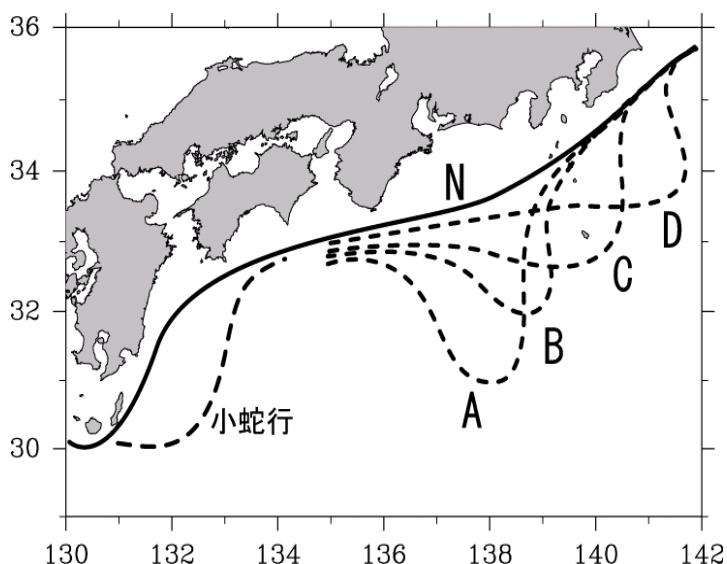


図1 黒潮流型の分類

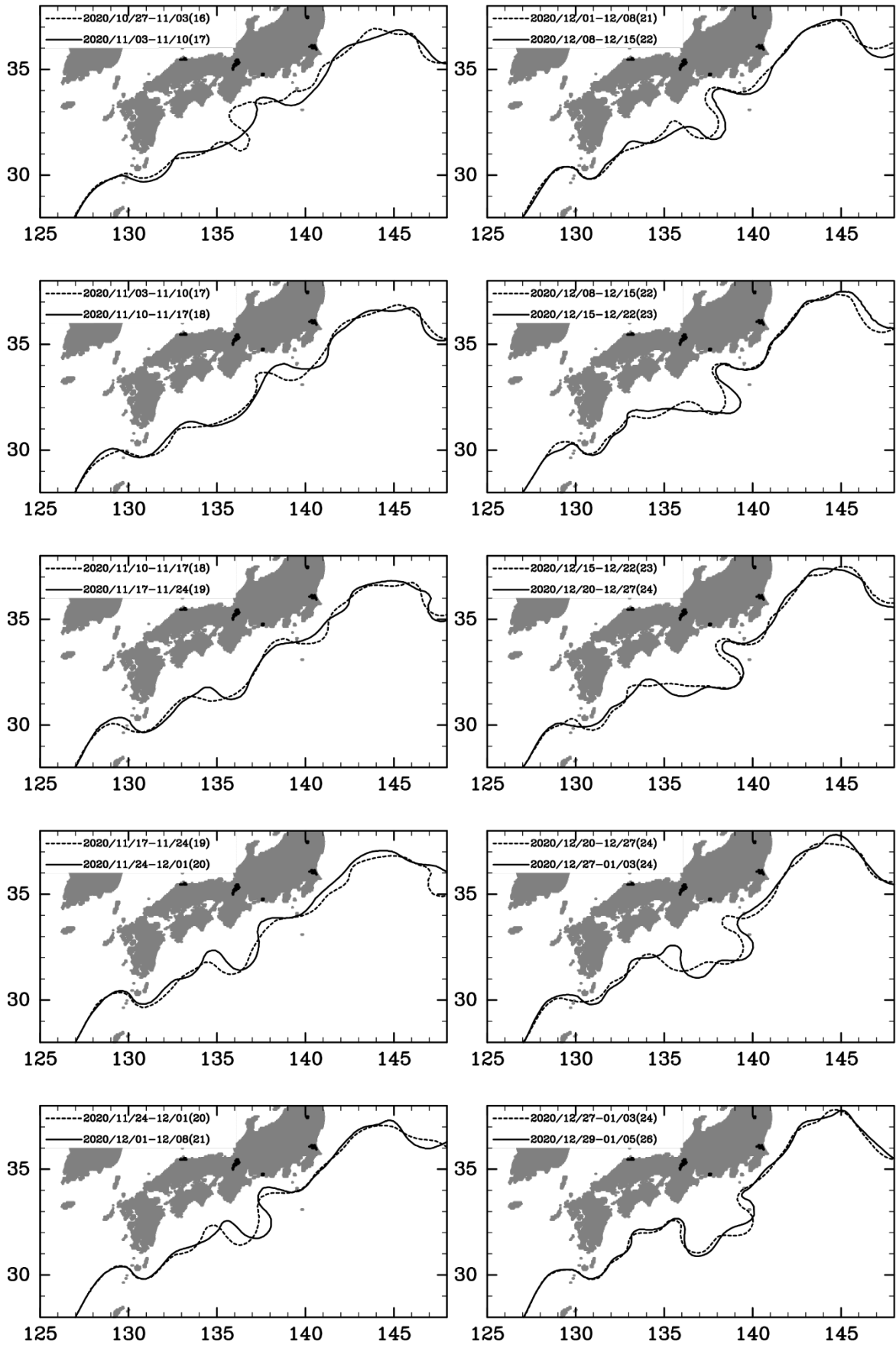


図2 黒潮流軸のパターン

(2020年11月~2021年3月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

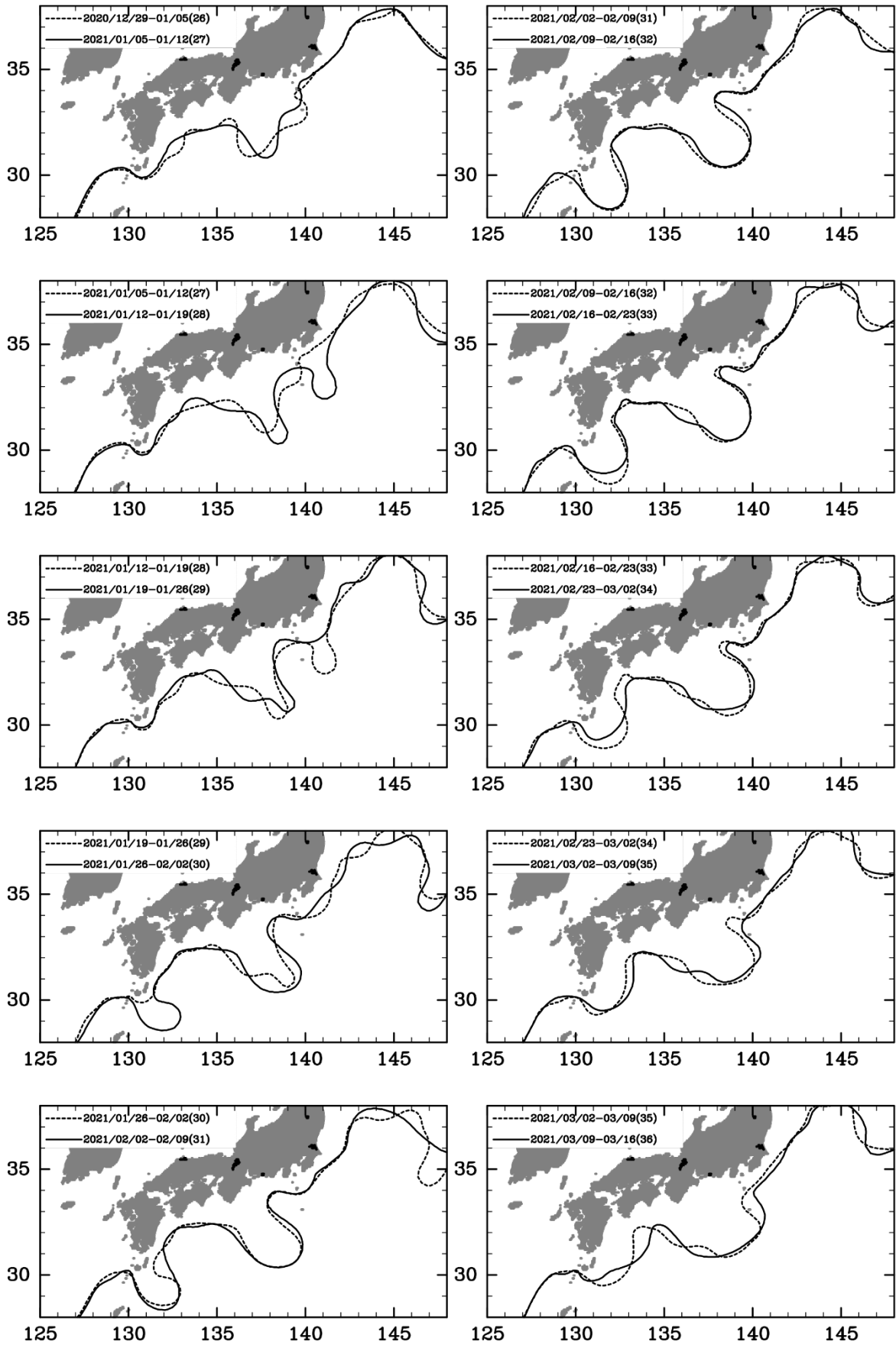


図2 (つづき) 黒潮流軸のパターン

(2020年11月~2021年3月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

## マイワシ太平洋系群等の漁況予報

### 今後の見通し (2021年4月～7月)

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚(2021年級群)、1歳魚(2020年級群)、2歳魚(2019年級群)、3歳魚(2018年級群)、4歳(2017年級群)以上。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

#### 1. 北薩～熊野灘(まき網、定置網)

(1) 来遊量：北薩～日向灘では前年並。豊後水道西側では前年並～上回る。豊後水道東側では前年を下回る。宿毛湾、土佐湾では前年並～上回る。紀伊水道外域では前年並。熊野灘では前年並～下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：北薩～豊後水道西側では、期前半は15cm～18cm前後(1歳以上)、期後半は8cm～13cm前後(0歳魚)主体。豊後水道東側では、6cm～12cm前後(0歳魚)主体。宿毛湾～紀伊水道外域では13cm以上(1歳以上)主体に12cm未満(0歳魚)も漁獲される。熊野灘では14cm以上(1歳以上)主体。

#### 2. 伊勢・三河湾～相模湾(まき網、定置網、船曳網)

(1) 来遊量：駿河湾～相模湾では前年並。(伊勢・三河湾、渥美外海では、前年同期が操業自粛であったため、前年との比較はできず)

(2) 漁期：伊勢・三河湾、渥美外海は6月以降。駿河湾、相模湾では期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では12cm未満(0歳魚)主体。駿河湾、相模湾西部では、12cm未満(0歳魚)主体に、15cm～17cmの(2歳魚)および13cm～15cm(1歳魚)が混じる。相模湾東部では15cm～20cm(2歳魚)主体に、12cm～15cm(1歳魚)が混じる。期後半に14cm未満(0歳魚)も漁獲される。

#### 3. 房総～三陸海域、道東海域(まき網、定置網)

(1) 来遊量：前年並～上回る。

(2) 漁期・漁場：まき網は、犬吠埼沖～常磐南部海域が主漁場となり、5月以降には常磐海域以北にも漁場が形成される。定置網は、仙台湾～三陸南部海域において、期を通じて入網がみられる。

(3) 魚体：12cm～15cm前後(1歳魚)、14cm～17cm前後(2歳魚)、16cm～20cm前後(3歳魚)、19cm以上(4歳以上)。期後半には12cm未満(0歳魚)も漁獲される。

### 漁況の経過(2020年12月～2021年2月)および見通し(2021年4月～7月)についての説明

#### 1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は、1980年代は1,000万トン以上の高い水準で推移したが、1990年代に入って急減し、2002年以降2009年まで10万トン前後の低い水準で推移した。その後、2010年～2014年に比

較的良好な加入が続いたこと、および漁獲圧が低下したことにより資源量は増加し、2014年には100万トンを上回った。その後も良好な加入が続いたことにより資源量はさらに増加して、2019年は342万トンと推定された。

2017年級群（4歳魚）以上は、最近10年（以下、近年）において比較的高い加入量の年級群で構成されている（2020年度資源評価）。2020年における3歳以上としての漁獲状況も、好調であった前年並となっており、高い豊度を示している。4歳以上の推定残存資源量は、前年並の高い水準にある。

2018年級群（3歳魚）は、加入量が635億尾と推定されており、近年において最も高い値となっている。2020年における2歳魚としての漁獲状況も前年を大きく上回っており、高い豊度を示している。2018年級群の推定残存資源量は、2017年級群の同時期を上回っている。

2019年級群（2歳魚）は、加入量が391億尾と推定されており、近年の高い水準を維持するものの2018年級群を下回る値となっている。2020年における1歳魚としての漁獲状況も、前年を下回った。2019年級群の残存資源量は、2018年級群の同時期を下回っている。

2020年級群（1歳魚）は、2020年に0歳魚として、主に西日本海域（北薩～土佐湾）において前年を上回る漁獲が見られている。沖合域においては、5月～6月の移行域幼稚魚調査（水産資源研究所）では前年と同程度の漁獲が見られ、6月～7月の北西太平洋北上期浮魚類資源調査（水産資源研究所）および9月～10月の北西太平洋秋季浮魚類資源調査（水産資源研究所）では前年を上回る漁獲が見られている。これらの情報から、現時点では不確実であるが、2020年級群の加入量は、前年並～上回る水準と考えられる。

2021年級群（0歳魚）については、現時点ではその水準を予測できない。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

### (1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

・来遊量：北薩、薩南海域では、4月まで1歳魚（2020年級群）、5月以降は0歳魚（2021年級群）が漁獲の主体となる。本海域において、2020年12月以降、産卵親魚の漁獲が見られないため、来遊量は低調だった前年並と予測される。

日向灘では、4月まで1歳以上、5月以降は0歳魚が漁獲の主体となる。2月末までの本海域の漁獲状況は前年を大きく上回っており、今後とも来遊は継続すると考えられる。また、2020年12月以降、本海域において成熟の進んだ成魚が漁獲されており、今後の0歳魚の好調な加入も期待される。以上より、今期の来遊量は好調であった前年並と予測される。

豊後水道西側では、4月まで1歳魚が漁獲の主体となり、5月以降は0歳魚主体に1歳魚が混じる。2020年12月以降、本海域の漁獲状況は良好に推移していたが、2月後半から水揚げがなくなった。また、5月以降に主体となる0歳魚の来遊量は現時点では不明である。以上より、来遊量の予測は難しい状況にあるが、資源状態が良好なことや前期の好調な漁獲状況を考慮して、今期の来遊量は前年並～上回ると予測される。

豊後水道東側では、0歳魚が漁獲の主体となる。本海域では、親魚となり得る成魚が漁獲されており、今後の0歳魚の好調な加入も期待される。前年同期が特異的に好調であったため、今期の来遊水準は前年を下回ると予測されるが、好調な来遊が期待される。



宿毛湾、土佐湾では、0歳魚および1歳以上が漁獲される。冬季の土佐湾におけるシラス漁の漁獲状況から、0歳魚の発生は前年を下回って推移している。一方で、宿毛湾における中型まき網の漁獲状況から、1歳以上の来遊は前年を上回っている。以上より、1歳以上の漁獲状況を考慮し、今期の来遊量は前年並～上回ると予測される。

紀伊水道外域西部では、0歳魚が漁獲の主体となる。本海域においては年間を通じて成魚を漁獲する漁業が少ないため、漁況からの来遊量の予測は難しいが、近年の漁獲傾向から、来遊量は前年並と予測される。

紀伊水道外域東部では、0歳魚および1歳以上が漁獲される。1月～2月の1そうまき網における漁獲はなく、近年の傾向からすると今期も来遊は見込めない。また、黒潮も引き続き離岸基調で推移すると予測され、マイワシ漁場の形成条件は悪いと考えられる。以上より、1歳以上の来遊量は低調であった前年並と予測される。

熊野灘では、1歳以上が漁獲の主体となる。本海域における春季の漁獲量とマイワシ太平洋系群の3歳以上の資源量には正の関係が認められており、太平洋系群の3歳以上の資源量は前年を上回ると推定されている。一方で、黒潮大蛇行により伊豆諸島周辺に暖水波及が生じ房総海域～伊豆諸島海域で大規模な産卵場が形成されると、熊野灘への3歳以上の来遊は少なくなる傾向があり、今期も同様の状況になる可能性がある。現時点で漁獲状況が前年を大幅に下回っており、本海域への来遊量は太平洋系群の資源量に対してそれほど多くない可能性が考えられる。以上を踏まえ、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

- ・漁期：各海域とも期を通じて漁獲される。

- ・魚体：近年の出現状況から、北薩～豊後水道西側では、期前半は15 cm～18 cm前後の1歳以上、期後半は8 cm～13 cm前後の0歳魚が主体となる。豊後水道東側では、6 cm～12 cmの0歳魚が主体となる。宿毛湾～紀伊水道外域では、13 cm以上の1歳以上主体に12 cm未満の0歳魚も漁獲される。熊野灘では14 cm以上の1歳以上が漁獲される。

## (2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

- ・来遊量：伊勢・三河湾、渥美外海では、0歳魚（2021年級群）が主体となる。2020年12月にマシラスの混獲がなく、0歳魚の来遊水準は低い可能性がある。一方で、マイワシ太平洋系群の資源量が増加傾向であることから、海況次第で春以降に黒潮内側域からの来遊が期待できる（本海域では、前年同期は資源管理の取り組みとして操業を自粛していたため、前年と比較する予測は行えず）。

駿河湾、相模湾西部では、0歳魚が漁獲の主体となり、2歳魚（2019年級群）および1歳魚（2020年級群）が混じる。推定親魚量およびマシラス水揚量と4月～7月の水揚量の関係から、今期の来遊量は前年並と予測される。

相模湾東部では、2歳魚主体に、1歳魚も漁獲され、期の後半には0歳魚も漁獲される。期前半の漁獲の主体となる2歳魚は、各地の漁獲状況や沖合域の調査結果から、前年同様に資源量が多いと考えられる。夏以降来遊する0歳魚の資源水準は現時点では不明であるが、親となる成熟個体も多く確認されていることから、好調な加入が期待される。ただし来遊量は、大蛇行している黒潮の北上流路の位置に大きく左右される。以上から、海況の不確定要素も考慮し、今期の来遊量は前年並と予測される。

- ・漁期：伊勢・三河湾、渥美外海は6月以降。駿河湾、相模湾では期を通じて漁獲される。

・魚体：近年の出現状況から、伊勢・三河湾、渥美外海では12 cm未満の0歳魚が主体となる。駿河湾、相模湾西部では、12 cm未満の0歳魚が主体となり、15 cm～17 cmの2歳魚および13 cm～15 cmの1歳魚が混じる。相模湾東部では15 cm～20 cmの2歳魚が主体となり、12 cm～15 cmの1歳魚も混じる。期後半には、14 cm未満の0歳魚も漁獲される。

### (3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

・来遊量：各年級群の資源状態と近年の漁獲状況から、今期の漁獲対象は1歳魚（2020年級群）、2歳魚（2019年級群）、3歳魚（2018年級群）および4歳（2017年級群）以上となる。また、期後半には0歳魚（2021年級群）も漁獲される。

4歳以上の来遊量は、資源状態を反映し、前年並の高水準になると考えられる。3歳魚の来遊量は、前述のとおり推定残存資源量が多いため、前年を上回ると考えられる。2歳魚の来遊量は、推定加入量および漁獲状況から、高い水準を維持するものの前年を下回ると考えられる。1歳魚の来遊量は、現時点では不確実であるが、沖合域での調査結果および各地での漁獲状況から、前年並～上回ると考えられる。0歳魚の資源水準は現時点では不明だが、産卵量や海況に応じて、期後半にまとまって来遊する可能性がある。以上より、全体としての来遊量は前年並～上回ると予測される。ただし漁獲量は、まき網の操業状況に左右される。

・漁期・漁場：まき網は、犬吠埼沖～常磐南部海域が主漁場となり、5月以降は常磐海域以北にも漁場が形成される。定置網は、仙台湾～三陸南部海域において、期を通じて入網がみられる。

・魚体：近年の出現状況から、0歳魚は12 cm未満、1歳魚は12 cm～15 cm前後、2歳魚は14 cm～17 cm前後、3歳魚は16 cm～20 cm前後、4歳以上は19 cm以上。まき網では、1歳魚～4歳以上が漁獲され、4月～5月は4歳以上が盛期となり、6月以降は、1歳魚～3歳魚が主体となる。また、期後半には12 cm未満の0歳魚がまとまって漁獲される可能性がある。定置網では、1歳魚～3歳魚主体に、4歳以上が混じる。

## カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

### 今後の見通し（2021年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2021年級群）、1歳魚（2020年級群）、2歳魚（2019年級群）。

年初に加齢。魚体は被鱗体長。

#### 1. 西薩～常磐南部海域のシラス（船曳網）

(1) 来遊量：西薩～紀伊水道外域では予測が困難。伊勢・三河湾、渥美外海、遠州灘～駿河湾、相模湾、鹿島灘～常磐南部海域では前年並。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

#### 2. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩、薩南海域、日向灘、豊後水道東側、宿毛湾・土佐湾では前年並～上回る。豊後水道西側では前年並～下回る。紀伊水道外域ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：4 cm～11 cmの0、1歳魚主体。

#### 3. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘ではまとまった漁獲がない。伊勢・三河湾、渥美外海は前年との比較ができない。駿河湾、相模湾西部では前年並～下回る。相模湾東部では前年並。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される（ただし、伊勢・三河湾、渥美外海では6月以降に本格化）。

(3) 魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では8 cm以下の0歳魚主体、その他の海域では、9 cm～12 cmの1、2歳魚主体に0歳魚が混じる。

#### 4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：房総・常磐海域、三陸南部海域では前年並～上回る。三陸北部海域、道東海域ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期・漁場：まき網は房総海域～鹿島灘で期を通じて漁獲されるが、極めて散発的。

(3) 魚体：7 cm～11 cmの1歳魚主体に漁獲され、12 cm以上の2歳魚がわずかに混じる。

### 漁況の経過（2020年12月～2021年2月）および見通し（2021年4月～7月）についての説明

#### 1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2020年度資源評価において、2002年の291万トンピークに減少傾向に転じ、2019年は12万トンと推定された。資源水準は低位、動向は親魚量の最近5カ年の推移から減少傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく、資源状態に応じて黒潮親潮移行域まで広く分布する。

2019年級群（2歳魚）は加入量が299億尾と推定されており、2018年級群の164億尾を上回った。2019年級群の0歳魚および1歳魚としての漁獲量は2018年級群のそれらを上回る水準と推定された。沖合域の調査船調査では、2020年の北西太平洋北上期浮魚類資源調査（水産資源研究所）における推定1

歳以上の CPUE と出現率は、低水準ながらも前年より高かった。北西太平洋秋季浮魚類資源調査（水産資源研究所）における推定 1 歳以上の CPUE は、前年を下回ったものの、東経 160° 以東の亜寒帯水域に少ないながらも分布が認められた。以上のことから、2019 年級群は依然として低水準ではあるが、沖合域での分布が認められつつある。

2020 年級群（1 歳魚）は、2020 年 7 月～11 月に東海海域を中心に、カタクチシラスや 0 歳魚として多獲され、それらの漁獲量は前年を上回った。沖合域の調査では、2020 年の北西太平洋北上期浮魚類資源調査において、推定 0 歳魚の CPUE は前年を上回り、出現率が上昇した。北西太平洋秋季浮魚類資源調査における推定 0 歳魚の CPUE は前年を上回り、東経 160° 以東の亜寒帯水域にも分布が認められ、出現率も高まった。これらのことから、2020 年級群は依然として低水準であるが、前年を上回る。

2021 年級群（0 歳魚）は、現時点ではその水準を予測できない。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

### (1) 西薩～常磐南部海域のシラス（船曳網）

・来遊量：西薩～紀伊水道外域では、今後も大型成魚の来遊が少なくと推測されるが、シラスの来遊量については予測が困難である。

伊勢・三河湾、渥美外海では、期を通じて漁獲される。今期は、黒潮流路は A 型が継続する予測で、本県沿岸域の春季の水温は高めで推移し、栄養環境が良好となりプランクトンも豊富になると考えられる。2020 年 1 月～2 月のカタクチイワシ漁獲量は前年より多く、産卵親魚は前年並または前年を上回ると考えられるが、2020 年 12 月にマシラスの混獲がなく、マシラスの来遊量が低い可能性があることから、シラスの来遊量は前年並となる。

遠州灘～駿河湾では、マシラスの漁獲量は、2020 年 10 月～2021 年 1 月のマシラス漁獲量が前年を上回ったため、前年を上回る。今期前半（3 月～5 月）のカタクチシラス漁獲量は、12 月～2 月の宮崎県におけるまき網のカタクチイワシ日別 CPUE の合計値が前年を上回ったため、前年を上回る。6 月の漁獲量はカタクチイワシ親魚量の低水準期には少ない傾向にあるが、前年は例外的に漁獲量が多かったため、前年を下回る。7 月の漁獲量は現時点では予測が困難である。また、3 月～5 月にかけて黒潮大蛇行継続の指標となる遠州灘沖の 1000 m 深における 3.3℃の水域面積の変動が大きいと予測され、黒潮流路変動に伴う暖水波及が発生する可能性が高いと考えられる。以上を総合的に考慮して、シラス全体の来遊量は前年並となる。

相模湾では、期を通じて漁獲されるが、漁況は海域による偏りが生じる場合がある。近年の漁獲傾向から、4 月はマシラス、5 月以降カタクチシラスが主体になる可能性が高い。カタクチシラスは大型成魚の資源が依然低水準と推定される中においても、増減はあるものの比較的コンスタントな漁が続き、前年のように好漁となる場合もある。マシラスは親魚量からすれば多くの来遊量が期待できるが、前年のように春漁の主体とならないケースもある。両種とも来遊や漁場形成は黒潮流路変動とそれに伴う相模湾内での流況の変化の影響を受け、不確定要素が多いが、近年の漁獲変動の傾向を勘案して、来遊量は前年並となる。

鹿島灘～常磐南部海域では、今期前半の本県沿岸域の海況はシラスの来遊、成育に適した高めの水温環境で推移する見通しであり、平年並となる。主漁期は平年と同じく 5 月からであり、6 月頃まではマシラス

が混獲される。

- ・漁期：伊勢・三河湾～渥美外海では6月から、その他の海域では期を通じて漁獲される。

## (2) 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

・来遊量：北薩、薩南海域では、今期の漁獲主体となる1歳魚（2020年級群）については、2020年12月以降のカタクチイワシ漁況は前年を上回って推移しており、2020年シラス秋漁は前年並であったことから総合的に前年を上回る。

日向灘では、5月までは、足摺岬以東由来と考えられる大型成魚群の来遊が漁獲の好不調を左右し、夏秋期は、被鱗体長10 cm～11 cm台の沿岸加入群が漁獲の主体となる。近年、大型成魚の来遊はほとんどみられず、今期も漁獲の主体となる可能性は低い。沿岸加入群の漁獲動向は、前年10月～12月の宿毛湾まき網漁獲量（銘柄：ドロ～タレ）と宮崎県シラス漁獲量（前年8月～12月）の相乗平均値を指標値として予測しており、前年11月の時点で指標値が前年を上回っていたため、沿岸加入群の加入は前年を上回ると予測した。しかし、1月以降、日向灘においてカタクチイワシの漁獲はなく、1月～2月のシラスの漁獲量は前年を上回っているが前年に比べウルメシラスの割合が高かった（聞き取り調査による）。以上のことから、指標値による予測よりも沿岸加入群の加入が少ないと考えられるため、来遊量は前年並となる。

豊後水道西側では、例年、4月～6月は1歳魚が主体に0歳魚（2021年級群）が混じる。12月は0歳魚が主体であったがその漁獲量は前年を上回ったものの低水準であった。また、1月～2月は水揚げがなく、予測期間中の1歳魚の来遊に期待が持てない。以上のことから予測は前年並～下回る。

豊後水道東側では、予測期間中における漁獲は体長40 mm～100 mmの0、1歳魚が主体となる。2020年12月～2021年2月には被鱗体長40 mm～80 mmの個体が好調に漁獲されていることから前年を上回る。

宿毛湾、土佐湾では、近年、4月～7月の宿毛湾中型まき網漁獲量と前年10月～12月の宿毛湾中型まき網漁獲量および日向灘まき網漁獲量の合計値には、同様の変動傾向が見られる。2020年10月～12月の宿毛湾中型まき網漁獲量と日向灘まき網漁獲量の合計値は前年を上回ったものの、前年同期は好漁であったことから前年並～上回る。

紀伊水道外域では、未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではない。

- ・漁期：各海域とも期を通じて漁獲される。
- ・魚体：4 cm～11 cmの0、1歳魚主体。

## (3) 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

・来遊量：熊野灘では、冬季に来遊する魚群は、前年夏秋季の漁獲対象とは異なり、黒潮域から大規模回遊を行う群れと考えられ、漁獲動向も前年の熊野灘とは連動しない。2020年の北西太平洋における小型浮魚類の資源量調査（資源研）によると、秋季に沖合に分布するカタクチイワシの資源量は低い水準にあると判断されることから、ほとんど来遊は見込めず、まとまった漁獲はない。

伊勢・三河湾、渥美外海では、前年同期はぱっち網が資源管理の取組として操業を自粛していたため、前年との比較ができないことから来遊量は予測できない。今期は春シラスが成長した0歳魚（2021年級群）が漁獲の主体となる。産卵親魚候補となる2020年1月～2月のカタクチイワシの漁獲量は近年では多く、

シラスの供給が期待される。

駿河湾、相模湾西部では、1歳魚（2020年級群）が主体に漁獲されるが、本系群の資源水準はかなり低水準であると予測されることから、来遊量は前年並～下回る。

相模湾東部では、近年の漁獲傾向から、今期は1、2歳魚（2019年級群）が漁獲の主体になる。カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は依然として低いと推定されていることから、来遊量は前年並となる。

- ・漁期：各海域とも期を通じて漁獲される（ただし、伊勢・三河湾、渥美外海では6月以降に本格化）。
- ・魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では8 cm以下の0歳魚主体、その他の海域では、9 cm～12 cmの1、2歳魚主体に、0歳魚が混じる。

#### (4) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

・来遊量：房総・常磐海域では、例年、2歳魚（2019年級群）主体の大型魚と1歳魚（2020年級群）主体の小型魚が漁獲対象となる。前年11月～12月0歳魚と1月～6月1歳魚の漁獲量の合計値と、11月～12月1歳魚と翌年1月～6月2歳魚の漁獲量の合計値が正の関係にあることから、前年漁期の小型魚が翌年に大型魚となって再来遊すると考えられている。2019年11月～2020年6月の房総・常磐海域における2019年級群の漁獲量は、3,545トンで1999年以降最低であった前年（2,987トン）を上回ったものの依然低水準であることから、漁獲の主体とならない。房総沿岸域における1歳魚は、前年秋季の0歳魚としての漁獲量が前年を上回ったことから低水準ながら前年を上回る。常磐沿岸域における1歳魚は、2020年12月～2021年2月の漁況が依然低水準であることから低水準な前年並となる。沖合発生群に関しては資源調査等の結果から低水準と考えられる。以上のことから、来遊量は低水準であった前年並～上回る。

三陸南部海域では、これまでの水揚の経過から判断すると、低水準であった前年を上回る。

三陸北部海域、道東海域では、漁業情報や調査船調査の結果から、まとまった漁獲がない。

- ・漁期・漁場：まき網は房総海域～鹿島灘で期を通じて漁獲されるが、極めて散発的。
- ・魚体：7 cm～11 cmの1歳魚主体に、12 cm以上の2歳魚が漁獲される。ただし、12 cm以上は極めて少ない。

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	和歌山県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター
福島県水産海洋研究センター	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部
茨城県水産試験場	宮崎県水産試験場
千葉県水産総合研究センター	鹿児島県水産技術開発センター
東京都島しょ農林水産総合センター	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター
神奈川県水産技術センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
静岡県水産・海洋技術研究所	(取りまとめ機関)
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
三重県水産研究所	